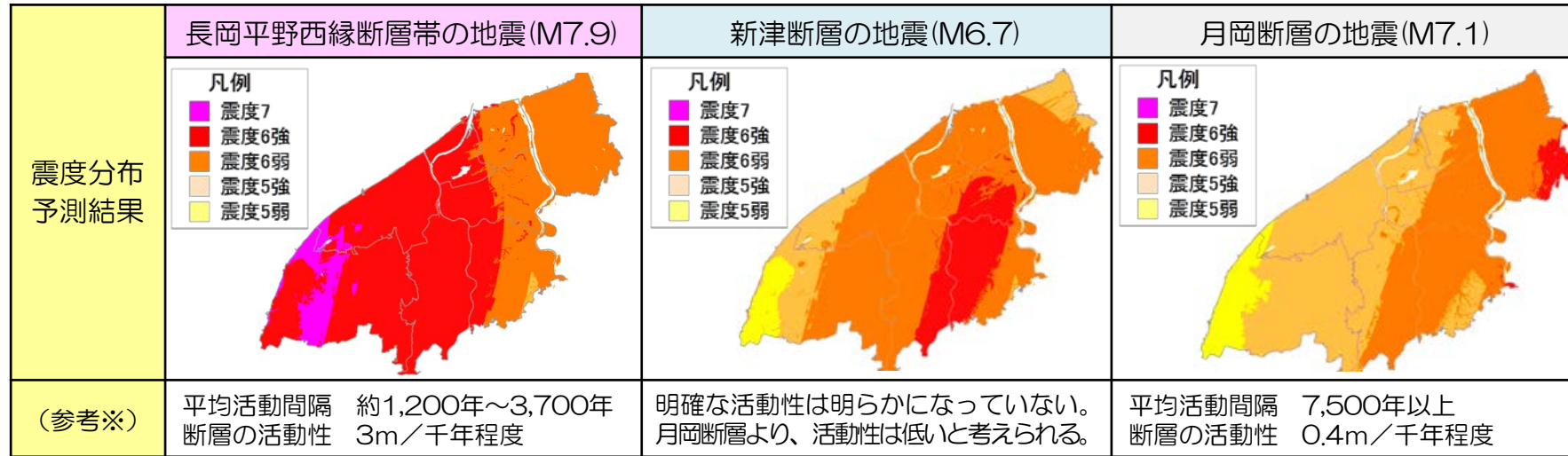
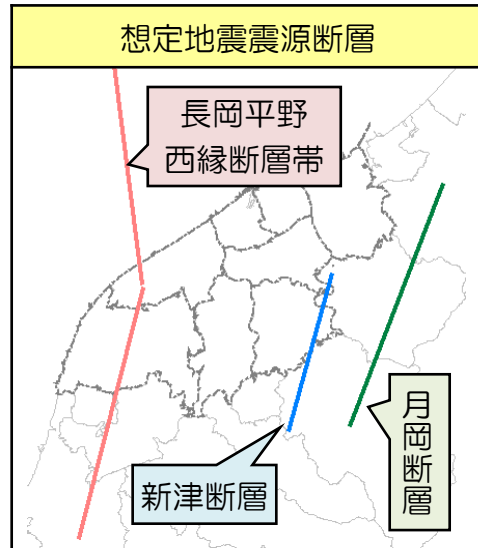


# 1. 新潟市防災基礎調査について

## (1) 想定地震の概要



最新の活断層調査結果等と有識者の助言をもとに設定

監修

- ・東京大学地震研究所 佐藤比呂志 教授
- ・新潟大学災害・復興科学研究所 卜部厚志 准教授

※(参考) 国の地震調査研究推進本部の長期評価及び有識者の助言を参考として記載しています。

## (2) 被害予測の概要【最も地震の規模が大きい長岡平野西縁断層帯のケース】

被害が最小となる夏12時、風速3m/sの場合

被害が最大となる冬18時、風速8m/sの場合

季節や時間帯、風速の違いで被害が変わらないもの

○建物被害 [対象建物数：約36万棟]

焼失	全壊	大規模半壊	半壊
約400棟	約31,000棟	約14,000棟	約84,000棟

○死傷者数

死者数	重傷者数	軽傷者数
約1,000人	約4,300人	約10,800人

○避難者数

1日後	3日後	1週間後	1か月後
約55,000人	約74,000人	約110,000人	約63,000人

○建物被害 [対象建物数：約36万棟]

焼失	全壊	大規模半壊	半壊
約58,000棟	約25,000棟	約11,000棟	約68,000棟

○死傷者数

死者数	重傷者数	軽傷者数
約4,400人	約4,800人	約10,700人

○避難者数

1日後	3日後	1週間後	1か月後
約128,000人	約138,000人	※約159,000人	約92,000人

○上水道(断水率)

直後	1週間後	1か月後	復旧日数
89%	72%	19%	39日で9割

○下水道(支障率)

直後	1日後	1週間後	復旧日数
7%	7%	5%	約20日で8割

○電気(停電率)

直後	1日後	3日後	復旧日数
95%	52%	16%	3.8日で9割

○都市ガス(支障率)

直後	1週間後	1か月後	復旧日数
78%	74%	24%	41日で9割

○道路橋

対象橋梁数	大被害率(不通)	中小被害率(通行制限)
669か所	1.2%	14.3%

【1週間後の区別内訳】 上段:避難者数  
下段:避難所受入可能人数(H27.4.1現在)

北	東	中央	江南
約5,400 (37,722)	約13,900 (39,876)	約24,500 (66,230)	約8,300 (31,617)
秋葉	南	西	西蒲
約8,400 (40,725)	約7,200 (30,268)	約27,700 (49,552)	約14,600 (51,056)

【1週間後の区別内訳】 上段:避難者数  
下段:避難所受入可能人数(H27.4.1現在)

北	東	中央	江南
約5,800 (37,722)	約19,200 (39,876)	約45,700 (66,230)	約9,400 (31,617)
秋葉	南	西	西蒲
約9,900 (40,725)	約8,500 (30,268)	約43,700 (49,552)	約16,800 (51,056)

※発災から1週間後、避難所に避難する者は最大約16万人発生するが、親戚・知人宅等に避難する人も同数程度発生する想定

## (3) 減災のための取組み

### 自助・共助・公助の連携

#### 《自助》

- ・住宅の耐震化や家具の固定(市の助成事業あり)
- ・消火器や感震ブレーカーの設置
- ・家庭内の備蓄(食料・水は最低3日分)
- ・避難場所、避難路を家族等で話し合って確認
- ・家族等との連絡体制の確認 など

#### 《共助》

- ・自主防災組織や消防団活動の充実
- ・顔の見える関係づくりによる災害時要援護者対策の推進
- ・地域における防災訓練の実施
- ・地域での避難計画の作成
- ・地域住民・施設・行政による避難所運営体制の強化 など

#### 《公助》

- ・避難所の耐震化 [市立小中学校の耐震化：H27年度完了]
- ・ライフライン施設などの耐震化
- ・庁舎等の非常発電機能確保
- ・事業者や他自治体等との協力体制の構築
- ・小中学校における防災教育の推進 など